

障害者団体等のヒアリング報告

障害者団体等のヒアリング実施日程		
実施日	団体名	ヒアリング結果まとめ上の標記
令和5年2月3日	障害者地域自立支援協議会(精神保健福祉部会)	精神保健福祉部会
令和5年2月7日	障害児通所支援事業所連絡会	障害児通所支援事業所連絡会
令和5年2月7日	障害者地域自立支援協議会(就労支援部会)	就労支援部会
令和5年2月14日	障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)	相談支援部会
令和5年2月16日	相談支援事業所連絡会	相談支援事業所連絡会
令和5年3月2日	高次脳機能障がい者の会「メビウスのWA」	障害者団体
令和5年3月2日	「発達障害者の親」の会 なのはな会	
令和5年3月7日	国分寺市聴覚障害者協会	
令和5年3月13日	国分寺市身体障害者福祉協会	
	国分寺市手をつなぐ親の会	
	国分寺あゆみ会	
	国分寺難病の会	

障害者団体等のヒアリング報告

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
1	相談支援体制の充実	・ 人員や予算を含めた、民間の事業所を支えるための市の仕組みを整備して欲しい。相談員を増やしていくことでより一層丁寧な相談に結びついていくと思う。	相談支援事業所連絡会
2		・ 計画相談の人員不足が課題となっている状況で、地域活動支援センターの増設も視野に入れた、総合相談をしっかりと担える所の確保というのが必要になってくると思う。	相談支援事業所連絡会
3		・ 各施設に、様々な障害について、多岐にわたって知識があり、相談を受けられる人が配置されて欲しい。その人が支援をするだけでなく、支援者のことも指導して欲しい。	障害者団体
4		・ つくしんぼについて、民間に委託しても相談員の不足は解決されないと思う。相談支援の体制がそもそもやればやる程損をする状態になっている。	障害者団体
5		・ 総合相談について、相談する側が深刻な状況であっても、予約が全然取れず、テンポが全く合わない。人を増やして欲しい。	障害者団体
6		・ 福祉人材の不足は全体として問題であるが、特に相談支援の部分は全てのサービスに繋がる出発点であり、優先して取り組む必要があると思う。	障害者団体
7		・ 行政の支援がライフステージごとに途切れてしまうと、親は本当に右往左往してしまう。相談の入り口の所をしっかりと整え、受け止め、そこで拾ったことを取りこぼしのないように繋げて行って欲しい。	障害者団体
8		・ 縦割り行政の中で、ひきこもりの相談はどこに行ったらよいか分からず、ハードルがとても高い。部署の壁を取り払って、市民が安心して相談できるようにして欲しい。	障害者団体
9		・ 国分寺市の現状を知り、地域性を見据えた対策を考えていくことが必要である。想定される避難者や対応方法等について分かっていないことが多く、分野を超えた情報共有と連携が図れると良い。	相談支援部会

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
10	災害対策	・定期的に災害について考える機会を持つことが大切である。	相談支援部会
11		・在宅避難者に支援を届ける視点も重要である。	相談支援部会
12		・災害直後から福祉避難所を開設する考え方があっても良いのではないか。より良い避難所の開設方法や避難生活の場の確保等について考えていけると良い。	相談支援部会
13		・実際に災害が起きた時に相談支援専門員が担当している利用者全員の安否確認を行うことは現実的に難しい。担当エリアを分けて対応する等、相談支援事業所が連携し、効率よく安否確認できるシステムがあると良い。	相談支援部会
14		・福祉避難所の機能として、在宅避難の場合でも福祉避難所に行けば必要な情報が分かる、物資がもらえる、といった機能があると良い。	相談支援事業所連絡会
15		・福祉避難所に対し、事前にどんな人が行くことが想定されているか等の情報共有があると良い。具体的な想定があまりされていない部分がある。	相談支援事業所連絡会
16		・福祉避難所の開設だけでなく、今あるものの中に誰もがアクセスしやすい状況を作ることが重要。一般の避難所にも、必要な人に情報や物資を届ける機能をどのように強化できるかを整理すべき。	相談支援事業所連絡会
17		・災害時には、在宅避難になる場合でも、声を出せない人もいるかもしれないので、大丈夫かどうかの確認はしてもらいたい。	障害者団体
18		・難聴を抱えている単身生活の高齢の方について、災害時に避難ができるか心配である。	障害者団体
19		サービス提供体制の整備	・障害福祉サービスのうち、自立生活援助はニーズがあると思うが実績が増えていないので、周知を行うなどして、実際使えるようなものになって欲しい。
20	・障害福祉サービスのうち、期限があるものについても、本人の実態に合わせて柔軟に対応して欲しい。期限があることによって、そのサービスが終了した後に行き場がなくなってしまうという不安から、サービスの利用に踏み切れない状況がある。		障害者団体
21	・グループホームは数は増えているが、重度の人が移行できるような受け皿になっていないので、そのような環境が整備されるように行政の方で指導して欲しい。		障害者団体

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
22		・医療的ケアになった場合に、これまでの通所先で受け入れができなくなり、受入れ先が見つからないことが想定され、課題となっている。	障害児通所支援事業所連絡会
23	サービスの質の向上	・グループホームの開設にあたって認可をしているのは都だと思うが、市の方でも条件を付ける等、サービスの質が確保されるようにして欲しい。監査もちゃんと機能するものであって欲しい。	障害者団体
24		・グループホームの質を向上させていくためにも、グループホーム事業所で連絡会を作り、情報交換等ができれば良いのではないかな。	障害者団体
25	教育	・特別支援学級の設置校を増やして欲しい。このことについて、障害の計画に項目を入れて欲しい。	障害者団体
26	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	・自分らしく生活していくためには、治療がうまくいっていること、経済的に不安がないこと、孤立しないことが重要である。	精神保健福祉部会
27		・不調時にヘルパー等の支援のニーズが高まることが多いが、不調時はサービスの申請が難しいため、リスクマネジメントの視点が大切である。	精神保健福祉部会
28	体験の機会・場	・体験の場を活用するためには、使用中のアセスメント方法、使用後の振返りと情報共有についても考える必要がある。	精神保健福祉部会
29		・登録を不要にするなど利用のハードルを下げる工夫も必要。	精神保健福祉部会
30		・入院中の方が試験外泊できる場や、日中活動先の体験もできる場、一人暮らしの方においては、ヘルパー利用体験も大切である。	精神保健福祉部会
31		・一般就労か就労継続支援B型どちらを目指すのか判断する場があると良い。	就労支援部会
32		・体験利用を事業所が受け入れやすくなるよう、体験利用の報酬化が必要である。	就労支援部会
33		・場を整えるだけでは体験は成り立たない。入口と出口（アセスメントと効果）を含めて考えていくことが大切である。	相談支援部会
34		・引きこもりの方を対象とした就労準備支援事業も体験の一つであるが、受け入れてくれる事業所の開拓や体験の場につなぐ役割を担う人材育成の面で課題がある。	相談支援部会

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
35		・体験の場を丁寧に整え過ぎると現実と乖離が生じてしまうリスクや、途中で挫折し、返ってマイナス体験になることも多々ある。さまざまなケースやパターンを踏まえながら、体験の期間や目標の設定等、市全体で考えていくことが重要である。	相談支援部会
36		・体験サービスとして報酬化できれば案内しやすくなるのではないかと。	相談支援部会
37	地域移行支援	・地域の支援者と顔の見える関係を構築することができると、退院後のサービス利用がスムーズなため、入院中から外部と接点を多く作ることが重要である。	精神保健福祉部会
38		・入院患者に対して、希望に沿う社会資源の情報が提供されることが重要である。退院後だけでなく、入院中から使えるサービスが充実していくと良い。	精神保健福祉部会
39		・児童で入所となった場合に、以前使っていたサービスの情報等が維持されて、戻ってきた時の支援に繋がれるような仕組みがあると良い。	相談支援事業所連絡会
40	緊急時の受け入れ・対応	・入院が必要であるかの判断や、受け入れた後の対応も課題となるため、医療との連携が必要。	精神保健福祉部会
41		・緊急時に対応するのは本人を日頃から支援している支援者が良いので、事前に緊急時を想定した支援の仕組みの構築ができるとよい。	精神保健福祉部会
42		・支援機関が多い場合、どこが中心を担うのかということを決めておくことが必要である。	精神保健福祉部会
43		・緊急時に向けて、事前にできる対応と実際に起きた時の対応が情報として整理されていると冷静な対応ができ、相談支援のネットワークづくりにもつながる。	相談支援部会
44		・家族から24時間365日の相談窓口の整備や緊急時の対応を求める声が寄せられているが、家族の考えや当事者団体の不安を解消する広報の仕方についても考えていけると良い。	相談支援部会
45		・相談体制の構築が支援者の負担につながる可能性や、相談先があることで連絡頻度を促進してしまう恐れも考えられる。緊急性を見極めは難しく、優先度（トリアージ）の部分強化していく必要がある。	相談支援部会
46		・家族や支援者等、誰かとつながりがあれば、緊急に発展しないケースは多々ある。市内にある既存の社会資源のネットワークを構築し、網の目を細かくして、いかにつながりのない人を作らないということが重要である。	相談支援部会

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
47		・緊急の要件が同居家族の急病等に限られず、広げられるべきだと思う。緊急時を想定した行き場所の確保が進められると良い。	相談支援事業所連絡会
48	居住支援	・体調悪化で入院となった際の住まいの維持，GH卒業後の住まい探しが難しい。	精神保健福祉部会
49		・親亡き後に一軒家を維持していくことが難しくなる状況がある。	精神保健福祉部会
50		・長く住み続けるためには，支援者がチームとなって継続的に支援を行うことが必須である。	精神保健福祉部会
51		・自立生活を支援するにあたって，バリアフリーになっている家が見つからない等，住宅の確保で躓いてしまい，結局施設に行くしかなくなってしまうような場合もある。	相談支援事業所連絡会
52		・学齢期におけるプライマリ・ケア，中高生のメンタルヘルスについて教育分野との連携ができるとよい。子どもに対してメンタルヘルスの講座を実施する等，身近な形で情報を伝えていけたら良いのではないか。	精神保健福祉部会 相談支援事業所連絡会
53		・就労支援施設と特別支援学校の連携を通して支援の改善点が見いだせると良い。お互いの支援を学ぶことで，入所後もスムーズに支援できる。	就労支援部会

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
54	関係機関・他分野との連携	・商工関係者や商店会と事業所が地域を活性化するようなイベント等を企画し、より親密な関係を築けると良い。	就労支援部会
55		・新規に利用者を受け入れた時など、支援にあたって学校での様子、保育園の時の様子等の状況を確認できたら良い。	障害児通所支援事業所連絡会
56		・保護者が学校には話しにくい事も、事業所の職員には話せる等、共有できればより良く対応できるのではないかな。	障害児通所支援事業所連絡会
57		・学童と学校の連携の中に、障害児通所支援事業所連絡会が入っていくことができれば良いのではないかな。	障害児通所支援事業所連絡会
58		・学校にも福祉との連携の必要性を理解していただいているので、保護者の許可を得たうえで特別支援教育コーディネーターやスクールソーシャルワーカー等学校と連携していけると良い。	障害児通所支援事業所連絡会
59		・学校にあまり行けない子の学校での様子を確認することで、通学できない理由の把握や、学校選択をより良い形でできるのではないかな。	障害児通所支援事業所連絡会
60		・不登校だった子が通学できるようになった事例で、事業所のアセスメントに特別支援学級の先生に参加してもらったのが大きな効果があった。	障害児通所支援事業所連絡会
61		・スクールソーシャルワーカーとの関わりについて、お互いの役割や守備範囲を知ることで、連携が図れるようになるのではないかな。	相談支援部会
62		・地域全体として、障害者も参加できる、誰もが受け入れられる環境というところを整えることが「共に生きる地域社会」に繋がっていくと思う。障害者計画だけでなく、他の分野の計画にも「障害者を受け入れる」というような文言があっても良いと思う。	相談支援事業所連絡会
63		・体験的な実習と雇用に直接結びつく実習の機会を提供できるようになると良い。体験できる職種幅も広がると良い。	就労支援部会
64	・事業所では勉強会等も実施しているが、職場体験に勝るものはなく、気軽に進められるような就労体験の場が充実していると良い。	就労支援部会	
65	・共同受注の取組については、近隣他市の事業所等との連携を推進していく必要がある。	就労支援部会	

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
66	就労支援の充実	・商業施設での合同販売会のマンネリ化防止，広報が課題となっている。優先調達についても計画に入れる等により広くアナウンスしてもらい，作業所の仕事に繋がるようにして欲しい。	就労支援部会
67		・共同受注の拡充に伴い，各事業所の作業品質のばらつきが課題である。また，物品の保管場所等が確保できず，大きい受注を受け入れることができないことも課題である。	就労支援部会
68		・価格表を活かした情報発信を行い，具体的な成果を上げていくことが課題である。	就労支援部会
69		・高次脳機能障害を理解している就労の事業所は少なく，他の障害の方の支援にあてがわれたまま，本当に本人にとって支援されるべき点が抜け落ちてしまう。	障害者団体
70		・近場で，特に市役所等で定期的に職場体験の機会があり，仕事内容の適性や支援方法について評価をしてもらえるシステムがあると良い。	障害者団体
71		・就労支援の事業所で，特に新しくできた所などは，サービスの質が確保されるように市がきちんと監督して欲しい。	障害者団体
72		情報アクセシビリティ	・どこにアクセスすれば情報が得られるのか，共有する方法があると良い。
73	・サービス等を作るときには，同時に伝える仕組みを考えていく必要があり，使いたい時に使えるサービスに行き着くとか，知っているけど使わないことが選べる等が大事である。		相談支援事業所連絡会
74	・一部の施設予約や，キャンセル等で予約のシステムが対応していないものがある。障害によって電話が難しいと，窓口には必ず行く必要があり，時間がかかってしまう。		障害者団体
75	・窓口で遠隔手話通訳を導入する場合は，画面が大きめのもので，手話が見えやすいように配慮して欲しい。		障害者団体
76	・市の窓口で，筆談対応を快く受けてもらえない場合があるので，職員の対応や，環境を配慮してもらいたい。		障害者団体
77	・ホームページを持っていない当事者団体や家族会等について，市から周知をして欲しい。市が主催の講座等で支援を必要としている人たちと出会いたい。		障害者団体

項番	項目	地域課題に係る意見の概要	団体名
78	人材の養成と確保	・ペアレントメンターの活動の場を市町村で確保して欲しい。話を聞いて欲しい人はたくさんいると思うので、そういった場所をセッティングして欲しい。	障害者団体
79		・地域福祉コーディネーターを含め、市とペアレントメンターが繋がりを持ち、協力できるような体制ができたなら良い。ペアレントメンターが来る日を市で発信してもらう等の取組みもして欲しい。	障害者団体
80	差別の解消及び権利擁護の推進	・市の手続きで、障害があっても自力で行えて、個人情報保護されるように環境整備、配慮をして欲しい。対応の仕方について、市民に差別を与えないように市役所全庁、全職員に周知を徹底して欲しい。	障害者団体
81	余暇活動	・自力で余暇を楽しむのが難しい障害者にとって、生きる喜び、力を発揮させるためにも余暇活動を支援するサービスで気軽に使えるものがあれば、もっと生活が充実すると思う。	障害者団体